

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和7年度病虫害発生予報第3号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病虫害防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病虫害発生予報第3号

(予報期間：6月下旬～7月上旬)

予 報 内 容

水 稻

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。前年に発生したほ場は、多発する可能性がある。防除は薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで農道、畦畔および遊休地等の除草を実施する。

フタオビコヤガの発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

大 豆

ネキリムシ類の発生は**やや多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。ウイルス病の発生を防止するため、アブラムシの発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。

果 樹

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。不定芽の除去に努め、降雨前後の薬剤防除を徹底する。

シンクイムシ類の発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

アブラムシ類及び**ハダニ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野菜・花き

スイカつる枯病の発生は**やや多**と予想される。発病初期の防除を徹底し、ほ場の排水に努める。

トマトキバガの発生は**多**と予想される。発生を認めたら直ぐに防除を行う。

オオタバコガの発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

コナガの発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

【病害虫発生予察注意報第1号（令和7年5月8日）参照】

ネギハモグリバエ、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

気 象 予 報

1 か月予報 （令和7年6月5日発表 新潟地方気象台）

予報期間 6月7日～7月6日

〔確率予報〕

気 温	低い	10%	平年並	10%	高い	80%
降 水 量	少ない	30%	平年並	30%	多い	40%
日照時間	少ない	40%	平年並	30%	多い	30%

〔概要〕

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

・6月7日(土)～6月13日(金)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

・6月14日(土)～6月20日(金)

前線や低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

・6月21日(土)～7月4日(金)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比
 2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(－) は不適要因、
 (±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

葉いもち

発生時期	7月上旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) BLASTAM感染好適条件は未出現 (±) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発病が認められた場合は、直ちに防除する。 (2) 穂肥は適正量を厳守する。

紋枯病

発生時期	垂直進展期は7月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 気温は高い (+) (2) 降水量はほぼ平年並 (±) (3) 茎数は並 (±)
防除上の注意事項	(1) 前年に発生した場合は、多発する可能性があるため観察に努める。 (2) 粉剤での防除は、イネの出穂前10～14日が適期である。 (3) 粒剤は薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。

斑点米カメムシ類

発生時期	本田侵入期は7月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで農道、畦畔および遊休地等の除草を実施する。

海外飛来性害虫（主にセジロウンカ、コブノメイガ）

発生時期	多飛来期は7月上旬
発生量	並
予報の根拠	(1) セジロウンカは現在、未確認 (±) (2) コブノメイガは現在、未確認 (±)
防除上の注意事項	(1) 当面の防除は不要であるが、今後の情報に注意する。

フタオビコヤガ

発生時期	6月下旬以降（第2世代幼虫）
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップでの発生は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

2 大豆の病害虫

ネキリムシ類

発生時期	6月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) フェロモントラップでの誘殺数は並（±） (3) 気温は高い（+）
防除上の注意事項	(1) は種時又は定植時の防除を徹底する。 (2) ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

アブラムシ類

発生時期	6月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（+）
防除上の注意事項	(1) ウイルス病の発生を防止するため、アブラムシの発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多（+） (2) 前年の発生は多（+） (3) 気温は高い（+） (4) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少（+） (2) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。 (2) ポリオキシシンおよびジカルボキシイミド剤は耐性菌が県内に広く分布しているため、散布回数をそれぞれ年1回にとどめる。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（+） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

リンゴ褐斑病	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。
ブドウベと病	
発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 大粒種（ヨーロッパ系統）の発病に注意し、発生初期の防除を徹底する。
カキ炭疽病	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 前年の発生は多 (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 不定芽の除去に努め、降雨前後の薬剤防除を徹底する。
カメムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。
アブラムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
ハダニ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

シンクイムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) ナシヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

4 野菜・花きの病害虫

灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) ほ場の排水に努める。 (3) 施設では換気に努めるが、過度の乾燥は避ける。

スイカ疫病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。

スイカつる枯病

発生時期	6月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発病初期の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病	
発生時期	6月中旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (±) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発病初期の防除を徹底する。
メロンべと病	
発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。 (2) 施設では換気に努める。
キュウリべと病	
発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。 (2) 施設では換気に努める。
カボチャ疫病	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (＋) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) ほ場の排水に努める。
ネギさび病	
発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発病初期の防除を徹底する。
ネギハモグリバエ	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (＋)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

トマトキバガ	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップの誘殺時期は多（＋） (2) 気温は高い（＋）
注意事項	(1) 発生を認めたらすぐに防除を行う
アブラムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
ハダニ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
アザミウマ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
オオタバコガ	
発生時期	増加期は7月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップでの誘殺数はやや多（＋） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。
ハスモンヨトウ	
発生時期	増加期は7月中旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップでの誘殺数は少（－） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。
コナガ（アブラナ科）	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多（＋）

防除上の注意事項

- (2) フェロモントラップ誘殺数は多（＋）
- (3) 予察灯の誘殺数は多（＋）
- (4) 気温は高い（＋）
- (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
【病害虫発生予察注意報第1号（令和7年5月8日）参照】